

【教えなさい 教えなさい また教えなさい】

これはモンテッソーリ女史の言葉です。

子育ての中で、保育の中で、とても大事な要素です。

『小さい子どもは、大人の8倍時間が掛かる』と言われることがありますが、子どもから見ると大人の動きは8倍速に見えているそうです。

つまり子どもが何かやろうとすると、それぐらい時間も必要、ということです。

例えば小さい子どもが、テーブルを拭いている様子を見て真似しようとする…

大人であれば、布の面をしっかりとテーブルに付けて、端から端まで滑らせて拭く、という動作をしますが、子どもの目には『単に台布巾をひらひら動かしている』ように見えていることが多いのです。

そこで保育園では「見ててね」と言って、ゆっくりと動作だけを見せます。

「これを畳んで、こうやって持って、端からズーっと…」というような言葉がけは出来るだけしません。

子どもは2つ（『聞く』と『見る』）のことを同時にするのが、まだ難しいからです。

一つひとつの動きを分析して、見せます。

- ① 台布巾をテーブルの上に置き、半分に畳む
- ② 手の届く一番遠くの左端に台布巾を置く
- ③ 右手の平で台布巾を押さえ、真横に右端までスライドさせる
- ④ 今度は台布巾1つ分だけ手前にずらし、また右手の平で押さえ、テーブルの左端までスライドさせて拭く

という具合に、一度よく見せてから「やってみる？」と渡します。

実際、こちらが意図したように出来なくても「もう1回やるから見ててね」と再度、同じようにして見せます。

決して「そうじゃないよ、こうやるの！」と否定的に言わず、違っていたら何度でも正しいやり方を見せます。

つまり【教えなさい 教えなさい また教えなさい】なのです。

園の中では、大きい子が小さい子のお世話や教えてあげる機会がたくさんあります。

大きい子も同じように「見ててね～」と言って、見せたり、やってあげたりしています。

小さい時に教えて貰ったことは、大きくなると今度は小さい子に教えてあげたり、まだ難しい同学年に教えてあげたりします。その関わりは本当に素敵です。

優しくしてもらった経験は、友達や周りの人に返してあげることが出来るんですね。

ご家庭でも『子どもには8倍ぐらい早く見えてるんだな』と思って頂き、いろいろなことをゆっくりやって見せて、親子で楽しい時間を過ごして下さい。

(大屋)